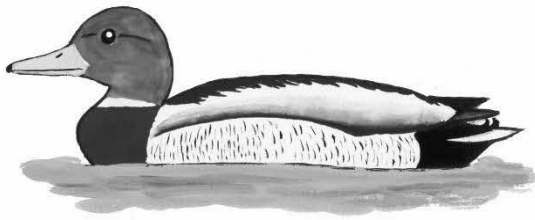


# ウトナイ湖のカモ いろいろ

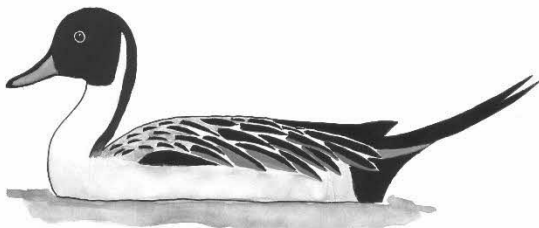
## マガモ

ウトナイ湖で見られるカモの中では、もっともふつうの種類です。オスは、あたまが緑色で、くちばしが黄色いのが特徴。黄色いくちばしをもつカモは、ウトナイ湖ではマガモだけ（メスはオレンジ色）なので、ほかのカモと見分ける時のポイントになります。水面で逆立ちをして水草などをたべています。だいたい1年を通して見られます。数が多いのは春と秋です。



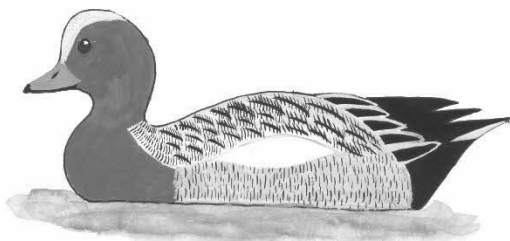
## オナガガモ

オスは尾羽がたいへん長く、めだちますが、メスは全体に色が地味で尾羽も長くありません。プリップリッとかわいらしい声でなきます。水面で逆立ちをして、水草をたべます。春や秋に見られるカモです。数百から千羽近い数の群れが見られることもあります。



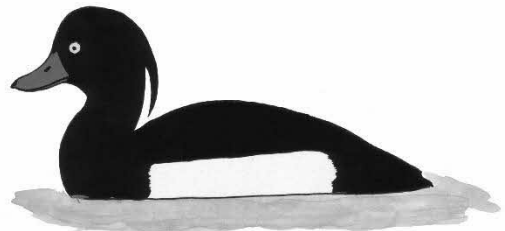
## ヒドリガモ

オスは頭からむねにかけてが明るい茶色で、おでこに黄色いすじが入っています。水面で逆立ちしたり、水面にういている水草をさかんにつついて食べます。プーンというかん高い声で鳴きます。湖岸の草地に上がったり、氷ったウトナイ湖のふちをあるいて、植物の種子などを食べています。



## キンクロハジロ

白と黒のコントラストがめだつカモです（メスはわき腹が白くなく、全体にくすんだ色あいです）。オスには、あたまのうしろに、おさげのような長い羽毛がたれさがっています。目は黄色です。マガモやオナガガモとはちがって、水にもぐって水草や水生昆虫、小魚などをつかまえて食べます。あまり鳴かず、陸へあがることもほとんどありません。秋から冬にかけてよく見られます。



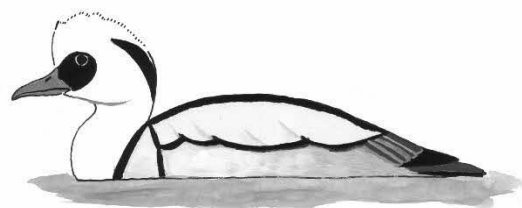
## カワアイサ

ウトナイ湖で見られるカモの中では、もっとも体の大きな種類で、65cmあります。オスは頭が緑色（メスはオレンジ色）で、赤いくちばしが目立ちます。先がかぎのように曲がったくちばしを使い、水にもぐって魚をつかまえます。魚をさがすのに、水中に顔だけを入れて、泳いでいるところもよく見られます。秋から冬にかけてよく見られます。群れのことが多いです。



## ミコアイサ

ウトナイ湖で見られるカモのなかでは、もっともかわいい種類でしょう。オスは全体に白く、目のところに黒い斑点があり、「パンダガモ」とよばれ親しまれています。肉食のカモで、もぐって小魚や水生昆虫などを食べます。春や秋に見られることが多いです。



# カモのこんなところを見てみよう！

カモは何を食べているのか？ .....

カモのなかまは、大きくわけて、草や種などを食べるものと、魚やエビ、貝などを食べるものの2つにわけられます。

オナガガモやヒドリガモは水草をよく食べ、スズガモはエビや貝を食べます。何を食べるかによって、いる場所や食べ方がちがいますので、よく観察してみましょう。

※パンなどのエサはあげないでくださいね。

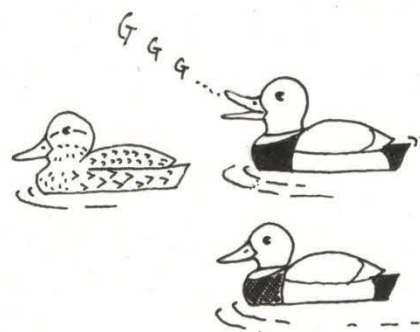


真冬のアツいたたかい・カモの求愛を見てみよう .....

冬、水べにはたくさんのカモのなかまたちが集まってきます。群れているのにはわけがあります。ひとつは、結婚相手をさがすためです。カモの群れをよく見ていると、1

羽の地味な羽色のメスのまわりに、うつくしい羽色のオスが何羽もあつまって、おかしい動作をしていることがあります。

これは、オスがメスに求愛しているところです。1～3月にかけて、とくによく見られるようになりますので、どんなプロポーズをしているか、観察してみましょう。



# カモはどこからやってくる？

日本で、冬にみられるカモのなかまたち。ウトナイ湖では、秋のわたりのシーズンのときには、およそ20種類ぐらいのカモのなかまを観察することができます。

カモのなかまの多くは、日本よりもずっと北のロシアのシベリアや、カムチャツカなどで夏をすごし、8月から9月ごろに、冬をこすため日本へわたってくるのです。

あなたが、今、みているカモも、きっと遠い北国から、数千キロの旅をしてきたにちがいません。かれらが、無事に冬をこせるよう、日本の水べをいつまでもたいせつにまもっていく必要がありますね。

